

令和5年度 第1回帯広市図書館協議会 議事概要

- 1 日時 令和5年5月17日(水) 18:30~19:30
- 2 会場 帯広市図書館 1階 多目的視聴覚室
- 3 出席者
委員 ロメロ会長、米谷副会長、久保田委員、高橋委員、千頭委員、西川委員
(以上6名、鴨田委員欠席)
事務局 井上生涯学習部長、永田図書館長、大林図書館副館長、中村図書係長、
青木係員 (以上5名)
報道 北海道通信社 (以上1社)

4 会議次第

- (1) 生涯学習部長挨拶
- (2) 議事
 - ①令和5年度予算概要について
 - ②令和5年度事業概要について
 - ③新型コロナウイルス感染症5類感染症移行後の対応について
- (3) その他
- (4) 閉会

5 議事要旨

①令和5年度予算概要について

…事務局より説明

【委員】(質問)

電気料金が値上がりしているが、節電などの対策は考えているか。また、図書館を閉館する対策を行っているところもあるようだが、そのような考えは。

【事務局】

明るさが不要なところは電気を間引きしたり、節水やエレベータの使用を自粛したりするなど、日頃より節電等に努めている。閉館については考えていない。

新型コロナウイルス感染症対策として、図書館の諸室の利用時間を短縮していたが、条例施行規則で開館時間が定められており、感染症の5類移行に伴って従前の22時までの開館に戻る。これにより電気の使用量は増加する見込み。

【委員】(意見)

本も値上がりし、利用者の好みも多岐にわたるため、予算の運用に工夫が必要。
22時までの諸室利用は必要だろうか。

【委員】（意見）

当方の施設でも節電については工夫している。図書館の費用を切り詰めるのは忍びない。

【委員】（意見）

長い目で考えたら、多少導入費用がかかっても蛍光灯をLEDに変えた方が節電となるので、検討してみてもいい。

【委員】（意見）

郷土資料収集について、少子化によって地域の力が弱くなってきた中、郷土史の量はそこまで多くないように見受けられる。意識的に収集して保存することで次世代につながる。

【委員】（質問）

電子書籍の購入について、毎年どのくらいで増えているのか。

【事務局】

具体的な数字では、令和3年度4月に2万6千冊ほどで開始した。うち1万1千冊ほどが、制限なく利用することができる青空文庫であり、その他の図書の中には2年間または52回借りられると権利が無くなるものもある。そのためこの冊数をベースとして増減を考え、購入している。

【委員】（質問）

著作権法の改正によって青空文庫も何か影響があるのか。

【事務局】

紙の本はデータになるものや、ならないものがある。一概には言えないが、出版社の考え方によるところも大きいのが正直なところ。

②令和5年度事業概要について

…事務局より説明

【委員】（意見）

新型コロナウイルス感染症から受けた影響が元に戻ったのは嬉しい。

③新型コロナウイルス感染症5類感染症移行後の対応について

…事務局より説明

【委員】（意見）

図書館は最初、新型コロナウイルス感染症の影響を受け動きが止まったが、それでも最終的には地域に根付けて活動し続けられたことはとてもうれしい。

【委員】（質問）

職員や来館者のマスクはこれから任意だが、おはなし会はどうか。

【事務局】

演者も参加者も任意とする。

【委員】（意見）

できれば表情を見ながらのおはなし会がいい。

【委員】（意見）

未曾有の事態だったが知恵を出して頑張っていたたように感じる。新たなる感染症が発生した際も今回の経験が活けると確信している。

【委員】（意見・質問）

自分の施設でも報告など対応に追われた。また、感染症5類移行後も、コロナ禍以前の状態に単に戻すのではなく、良い取り組みは活かすなど改善を加えたものとなることが求められている。

図書館では新型コロナウイルス感染症の対応を経てプラス面はあったか。また、新型コロナウイルス感染症により措置したものはすべて戻すか。

【事務局】

得たものとして主なものは電子図書館の導入である。影響を戻すといったところでは、対面事業は重要だと再認識したので大事にしていきたい。感染症対策によって選択肢が増えた、資料を紙で持つか、電子で持つかといったところはこれからの課題になる。

(3) その他

委員からは特になし。事務局より事務連絡。

(4) 閉会